

## 組織目標評価報告書(令和2年度)

17-1

部局名: 大学院医歯薬学総合研究科 医学系

部局長名: 大塚愛二

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>社会から必要とされる高等教育の視点から、3ポリシーの見直し、教育課程の見直し、授業の実施形態の見直しを一体的に行い、高度人材を養成して定員充足を図る。引き続き、教育のグローバル化、リカレント教育を推進するための種々の施策を立案・実施する。なお、本年度の特殊要因として新型コロナウイルス感染症への対応を組織的に行う。</p> <p>①教育プログラム改革:【修士課程医歯科学専攻】学位プログラム化に向けて検討し、基本的な将来構想を策定する。社会人のニーズに即して公衆衛生学(MPH)コースのカリキュラムの見直しを行う。【博士課程4専攻】学位プログラム化に向けて検討し、基本的な将来構想を策定する。</p> <p>②遠隔授業の導入拡充:【修士課程医歯科学専攻】Moodle/Zoom/Teamsなどを用いた遠隔授業を導入し拡充する。【博士課程4専攻】POSGRAサイトを用いたオンデマンド型の遠隔授業、とくに留学生に対応した英語による遠隔授業を推進する。</p> <p>③感染症対応:世界的流行となった感染症の状況を踏まえ臨機応変に対応し、学生等のキャンパス内での安全並びに海外派遣受入の安全を図る。</p> <p>④附属医療教育センターを効率的に運用し、多職種連携教育活動の活性化を推進する。</p>	3③ 9-1 10-1 17-1 18①	<p>①教育プログラム改革:【修士課程医歯科学専攻】学位プログラム化を見据えて、現行のコースについて点検し、医歯科学コース・公衆衛生学コース・分子イメージング技術習得コースの3コースとし、学位プログラムへの移行を円滑に進めることができるよう準備した。【博士課程4専攻】学位プログラム化への検討を行い、令和5年度実施に向けて専攻の改組大括り化を含めて将来計画案を策定した。</p> <p>②修士課程、博士課程共に、可能な限り遠隔授業を実施した。コロナの影響で登校に困難な状況にある学生からも好評であった。</p> <p>③コロナ感染に対してリスクマネジメントを行い、学位研究に支障のないように体制を整えた。研究室等でのクラスター発生はなく、学位取得にも影響を最小限に抑えることができ、2021年3月の医学系博士課程修了者は60名と前年を上回っていた。学修支援のための基金を募り、困難している学生を支援した。</p> <p>④多職種連携教育活動の前提となる医学・歯学・薬学3学部合同のFDを主催し実施した。多様な背景を持つ教員FDにより今後の連携と相互理解が進んだ。</p> <p>◎文部科学省の「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」に東北大学(主幹校)、北海道大学(連携校)と協力し、「『Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点」を申請し、採択された。博士課程にAI人材育成コースを設定し、2021年度4名の入学生を受け入れる。</p> <p>◎附属医療センターと医学部が中心となって文部科学省「感染症医療人材養成事業」に採択された。</p>
<b>②研究領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための種々の施策を策定する。</p> <p>1. 研究の実施体制並びに実施状況</p> <p>①認定された医療法上の「臨床研究中核病院」としての活動を病院と緊密に連携しながら推進する。</p> <p>②認定された第3期橋渡し事業「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の3年目として事業の推進を加速しつつ拠点としての自立化対応を引き続き強化させる。学外シーズの発掘・支援をより積極的に進める。</p> <p>③認定された「がんゲノム医療中核拠点病院」としての活動を病院並びに上記①②のプログラムと一体化して推進する。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <p>①外部研究資金等の獲得の推進:各種競争的資金の獲得支援を病院と一体となり実施する。</p> <p>②産学官連携活動の推進:研究推進機構医療系本部の活動強化。上記の取り組みを有機的かつ効率的に実施するため、またグローバル化に対応するために医療系等研究開発戦略委員会は、「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」と融合的に活動する。</p>	27-1 32-1 33-1 38-1 56-2	<p>1. ①②③ 岡山大学病院の医療法上の臨床研究中核病院としての活動、第3期橋渡し研究戦略的推進プログラム、がんゲノム医療中核拠点病院としての活動について、病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センター、および研究推進課と連携しつつ、一体的に推進を図った。橋渡し研究戦略的推進プログラムにおいて、中四国を中心に学内外から応募のあったシーズA 84件、シーズB・preB 18件、シーズC・preC 4件を審査し、シーズA 38件(学内シーズは17件、うち研究科(医学系)11件)を採択。シーズB・preB 14件、シーズC・preC 3件を岡大拠点シーズとしてAMEDに応募、ヒアリング等の支援を実施した。</p> <p>2. ①②各種競争的資金の獲得について、本研究科と病院とで一体となって推進を図った。科研費の応募申請書の添削指導を実施した。</p> <p>その他に、異分野の研究者が互いの研究情報とアイデアを語る会として、ブレインストーミングをオンラインで実施した。非常に好評で、今後、共同研究を生み出すきっかけになると思われた。</p>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>以下の社会貢献領域としての目標を設定する。</p> <p>①国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的かつ主体的参画: ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに積極的に参加する。</p> <p>②CMA-Okayama構想実現に向け活動を病院と連携しながら推進する。</p> <p>③世界的流行となっている感染症に対応するため、病院と一体となってその対策を講ずる。</p>	73-1	<p>①ミャンマー医療人材育成支援については、コロナ禍のためと同国の政変のため、一時中断せざるを得ない状況にある。情報収集に努めている。</p> <p>②CMA-Okayamaの取組として、治験ネットワークの推進を進めた。また、コロナ対策の情報ネットワークとして機能している。</p> <p>③コロナ対策として研究科としては専門家による指導助言を行政をはじめとする関係機関に行っている。</p>
<b>④管理運営領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>上記、教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取組む。</p> <p>①部局運営体制の強化・活性化を推進する。特に、各学系との横の連携を深化・進化させるため従来の会議体においてPDCAサイクルを用いた目標の工程管理を行う。</p> <p>②会議のオンライン化とペーパーレス化を図り、時間を効率的に運用する。</p> <p>③安全衛生に対する配慮のため、職場巡視、ストレスチェック等を推進するとともに啓発活動を行う。</p> <p>④施設整備の推進について、関連事務局との連携を行い中長期的なプラン策定のための調査を行う。特に、教育研究スペースの不足、狭隘化に対する調査と対応を行う。</p> <p>⑤法令遵守の徹底について、種々のコンプライアンス関連の講習会等を計画的に実施する。</p> <p>⑥世界的に流行している感染症の拡大防止に取り組む。</p>	89-① 90-② 91-③ 92-① 93-②	<p>①拡大部局長室会議、研究科運営会議を通じて、各学系との横の連携を深化・進化させるよう、情報の共有を図った。</p> <p>②会議は、コロナ対策のためほとんどオンライン化し、ペーパーレスとなった。</p> <p>③安全衛生に対する配慮のため、定期的な職場巡視、ストレスチェック、メンタルヘルス相談状況、作業環境測定、健康診断受診を組織的に取り組んだ。長時間労働のチェックを行い、指導と調整を行った。</p> <p>④歯学部棟改修に対応するため、改修期間中の逃げ地対応プランを策定した。</p> <p>⑤法令遵守と種々コンプライアンス関連の講習会を計画的に実施し、積極的な参加を促した。</p> <p>⑥コロナ感染症拡大防止と教育研究活動を持続的に遂行するためのため、リスクアセスメントを重点的にを行い、活動方針を定めた。</p> <p>◎学位プログラム化を前提として、博士課程4専攻を大括り化し、1専攻にするための改組に取り掛かり、ワーキンググループを立ち上げ、検討に着手した。</p>